

17年度決算を認定

今回の議会には、平成17年度一般会計・各特別会計の決算認定の議案が上程されました。決算特別委員会での審議後、本会議において、一般会計を賛成16名、反対1名で、また、各特別会計については全会一致で可決、認定しました。

町長が提案理由を説明

決算認定の議案を提出するにあたり、町長から、17年度は「輝かしい未来に向かって新たな瑞穂の創造の年」をキャッチフレーズに、長期総合計画に沿いながら諸事業を次のとおり実施したとの説明がありました。



石塚町長が決算を提案

「環境と共生するまちづくり」

- ・環境学習と町民の憩いの場とした「みずほエコパーク」を国と整備。
- ・緑の保全事業として、12カ所を保存樹林地に指定。

「快適で便利な都市基盤整備づくり」

- ・第三分団詰所（石畑）を建設。

「活力ある生活を支えるまちづくり」

- ・元狭山コミュニティセンターの建設工事を着工。
- ・町営グラウンド庭球場の照明を改修。
- ・庁舎の一部をハローワークに提供。

「自らを高め互いを認め合うまちづくり」

- ・児童・高齢者・障害者の福祉と保健を一体とした地域保健福祉計画を策定。
- ・子ども家庭支援センター「ひばり」を開設。
- ・シルバーワークプラザを元狭山地域に建設。
- ・平和事業として広島のアサヒ記念館よりアンネのバラの寄贈を受け、平和祈念碑前に移植。

「個性とやさしさを育む教育・文化づくり」

- ・第五小学校の耐震診断調査を実施。
- ・第一小学校、瑞穂中学校のトイレ改修工事を実施。
- ・町の国際化推進などのため、町民等8名をモーガンヒル市（カリフォルニア州）へ派遣。

各会計の決算額

| 会計名 | 歳入 | 歳出 |
|------------|------------------|------------------|
| 一般会計 | 115億3,358万4,361円 | 113億2,192万2,072円 |
| 特別会計 | | |
| 国民健康保険 | 29億7,319万9,297円 | 29億3,454万8,026円 |
| 駅西土地区画整理事業 | 8億6,571万2,226円 | 8億2,894万3,895円 |
| 下水道事業 | 10億9,687万8,971円 | 10億7,795万1,165円 |
| 老人保健医療 | 16億5,682万6,841円 | 16億1,352万7,464円 |
| 介護保険 | 12億6,601万2,632円 | 12億2,727万2,599円 |
| 一般会計 | | |
| 殿ヶ谷財産区 | 1億8,632万8,525円 | 1億8,438万7,476円 |
| 石畑財産区 | 3億3,554万2,504円 | 3億2,816万1,905円 |
| 箱根ヶ崎財産区 | 2億3,768万5,060円 | 2億3,528万6,109円 |
| 長岡財産区 | 646万9,177円 | 593万8,066円 |

決算特別委員会で審議



決算特別委員会で細部にわたり審議

町側からの提案を受けた議会では、直ちに決算特別委員会を設置し、委員長に小池信一郎議員、副委員長に小川龍美議員を選出。原議長、上野監査委員を除く16名により、3日間にわたって審議を行いました。

一般会計では、前年度と比較して歳入では15億3600万円の減、歳出では、15億6100万円の増となっています。質疑の主な内容は、歳入では税金の滞納額が多額になっていることから徴収の方法や成果を、また、歳出では、町の事業全般にわたって、経費に見合う事業内容かなど、その成果を問うものでした。なお、質疑の件数は、一般会計、各特別会計を合わせて、224件ののぼりました。

各議員の賛否は11ページに記載



起立採決の様子（本会議）

一般会計決算における質疑のピックアップを次ページ以降に掲載してあります。

一般会計については、次のとおり賛成・反対の討論が行われました。（要約）

賛成

小川 龍美議員

交付金が減少するなど、財源確保が厳しい中、子ども家庭支援センター「ひばり」の整備、シルバーワークプラザの建設、学校のトイレ改修など幅広い事業が推進された。また、町税の収納率が1・94ポイントのプラス、不納欠損が68・95%の大幅な減となるなど、収納率向上の成果が表れた。この結果、2億円余が翌年へ繰り越す財源となったことなどは、評価できる。

反対

大坪 国広議員

栗原地区の区画整理は、事業費として130億円の規模となり町負担としても30億円以上の多額な費用が求められる。八高線の複線化や新駅構想が不明確であり再検討すべき。

いまだに解消されない待機児童対策は、保育園の建設計画を持つことが第一の解決策。学校教育では、少人数学級実現に向け、都に要望すると共に、町独自でも実現すべき課題である。